

## ひとつの方向に雪崩れる怖さ

山口 洋司

1年でいちばん平和の問題を考える8月が終わりました。今年は戦後80年ということで余計にメディアを通じて<戦争と平和>がクローズアップされました。

80年間日本は、憲法9条の戦争への歯止めがあるために、いくつかの危機にも辛うじて平和を維持してこれたのです。

しかしその憲法を無視して集団的自衛権や敵基地攻撃を容認したり、年々平和を妨げる要因が膨れ上がってきています。法律上同盟、同志国の戦争に加わったり、専守防衛だけでなく先制して相手国の基地を攻撃することが出来る国になってきているのです。



アメリカに取り込まれた政権は、安全保障の環境が悪化していると誇大に叫び、アメリカから戦闘機や防衛装備品を買わされたうえ、アメリカから圧力をかけられて膨大な軍事予算を組まされ、軍事大国にひたすら進んでいるのが現実です。

そのアメリカべったりの与党自民党はさきの参議院選挙で大敗しました。しかし、それに変わってのしてきたのが参政党というなんだか気持悪い政党です。自民党以上に右派な政党のようです。憲法を新しく作ると言います。それがなんと主権は国にあり主権在民ではないのです。国会で決めたことに天皇が拒否権を持つようなことを発言しています。

教育勅語や徴兵制も否定せず、核は通常武器より安くてよい、スパイ防止法を作る。天皇は側室をたくさん持ち子どもをつくれなど、言いだす黨員もいます。狂気じみしています。

恐いことにその参政党が参議院選挙の政党名の比例得票で742万票も取り、国民民主党に次いで野党第2党の得票となり立憲民主党をも上まわったのです。沖縄や広島では比例得票野党第1党です。

根っからの右翼でなく、“素人右翼”的な参政党そのものもさることながら、ほんとに恐いのは<日本人ファースト>と、外国人排斥ともとれるキャッチフレーズのもとこれだけの票を多くの人々が参政党に一齐に寄せる現実です。雪崩のようになだれていく、この得体のしれないこの現実一。

かって、<米、英撃ちてし止まず! >と国民やメディアなどが一体となって、ひとつの方向になだれていった現象とダブるんです。

選挙前日、東京タワーの下の芝公園を賛同者が埋め尽くし、参政党神谷代表に呼応して1、2の3政党、と指を上げる熱狂をテレビで見て背筋が寒くなるのでした。